



留学生新聞

2009年6月25日 発行 〒512-8512 四日市市萱生町1200 留学生支援センター

編集部：王 金栄（経営3） 鄭 秋蘭（経営3） 吳 徳峰（現代ビジネス3）
チェトリ・ミラン（メディア2） ヤン レイ（経営2） ユディ・ヌガラハ（総合2）

ピカピカの一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます！



留学生の新入生を迎えるため、5月23日に新入生歓迎会を兼ね、留学生、先生方、日本人学生など約140人が集まって、学生食堂で新入生交流会が行われました。留学生支援センター長加納先生による「人ロクイズ」、全国大会出場が決まったラマ・カンチャさんのスピーチ「日本への思い」、各国代表者による「お国紹介」などの後、内モンゴル出身のムンフナラスさんとマンドラさんがギターを弾きながら、メロディーの美しい民謡を歌い、大喝采を浴びました。週末にもかかわらず、沢山の先生方と日本人学生とが来てくださいました。

留学生として私は、先生方と日本人学生の気持ちを強く感じ、非常に嬉しくて感動しました。

新入生の皆さん、大学の生活はまだ慣れていない方もいるかもしれませんが、先生や日本人学生などと交流しながら、しっかり頑張れば、不安感がすぐ消失すると思います。この大学では、留学生に対して、とても熱心で、親切です。特に、留学生支援センターの先生方が行き届いた対応をしています。私は、実感しております。

人生で、コツコツ努力することは何よりも大切だと思いますので、夢を忘れずに、目標を達成し、遣り甲斐のある大学生活のため、自分に挑戦し、もっともっと頑張らなければいけないと思っています。

（経営学科2年 ヤン レイ）

////////////////////////////////////

皆さんご声援ありがとうございました！

私は日本に来て2年になります。好奇心旺盛な私は、一人で色々な体験をしてみたいという気持ちで今までやってきました。そんな私が日本語を上達させたいという思いで応募したのが、今回の「外国人による日本語弁論大会」です。来日直後から自分が感じていた日本に対する思いをスピーチにして応募したところ、運よく130人の中から選ばれ、本大会へ出場することになりました。ところが、嬉しさも束の間、大会までの練習は大変でした。大学やバイト先で暇な時間を見つけ、必死に発音練習を繰り返し、何とか大会に間に合わせ、当日は多くの聴衆の前でスピーチを披露することができました。当日は、お昼御飯がのどを通らないくらい緊張しましたが、スピーチ終了後の聴衆の盛大な拍手を聞いた途端、それまでの緊張が取れ、言いようのない充実感を味わうことができました。入賞はできませんでしたが、本当に良い経験をすることができ、大きな自信になりました。



今回の弁論大会では、多くの人に助けてもらいました。多くの友人や先生方、本当にありがとうございました。皆さんのお陰で、何とか無事に終えることができました。まだまだ未熟ですが、これからも、頑張って大学生活を送って生きたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

（経営学科2年 ラマ・カンチャ）



奨学金

平成 20 年度私費外国人留学生成績優秀者（後期）奨学金授与式

5 月 1 4 日（木）、平成 2 0 年度成績優秀者（後期）奨学金の授与式が行われ、教学部長の岩崎恭典先生より受賞者 6 名に手渡されました。

受賞者の皆さん、おめでとうございます。

学 部	学 科	学 年	氏 名
経 済	経 営	3 年	鄭 秋蘭
経 済	経 営	4 年	張 忠玉
環 境	環 境	4 年	陳 炎珠
環 境	環 境	4 年	史 先飛
総 合	総 合	2 年	満 都拉
総 合	総 合	4 年	趙 菲



Discover Japan 募集開始！ 《ぜひ応募してください》



「Discover Japan」とは、留学生在が夏休み期間中に 3 日間以上の日本各地を旅行して、日本の文化や習慣を学ぶという、本学独自の奨学金制度です。これまでに多くの留学生在が、自分たちで考えた旅行計画を実施しました。大学の中で学ぶだけでは知ることのできなかった多くのことを学び、多くの体験をしてきています。

今までにこの奨学金を受け取った学生は、富士山に登ったり、東京で日中交流の歴史を垣間見たり、高山で古い日本の町並みを歩いてきました。そして、視野を広げ、自分たちの知らなかった「日本」を見ることができました。地元の人々とのふれあい、美味しい郷土料理を食べ、忘れられない思い出もできるでしょう。

詳細は留学生支援センターまで。

応募締切は、7 月 3 日(金)午後 3 時。

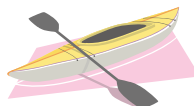


E ポート 参加者募集！

岐阜県「笠松みなと公園」で開催：参加費 500 円(昼食つき)

10 人乗りゴムボートで、他のチームと競争します。川は浅いので、泳げなくても大丈夫です。ぜひ参加してください！申込は留学生支援センターまで。

日 時：8 月 2 9 日（土）7：30～17：30



四日市大学留学生会

皆さん、「成功」という言葉を皆さんはどのような風に理解しているのか？

私が所属している神戸大学大学院社会環境会計研究室の先輩の一人は憂鬱になって、2年間に家に引き籠もっていた。そして病状が緩和して、今年からキャンパスに戻ってきた。修士課程と博士課程を合わせて、8年の年限があるので、彼にとって今年は最後の1年である。今年で卒業できなかつたら、博士の肩書きを取れなくなるだけではなくて、もし研究し続けたいなら、博士課程を一からやり直さないといけない。彼は過去の2年間何もしてなかったため、卒業研究の完成は完全に無理だと皆に告げられた。しかし、彼は自らの願望を放棄せずに、病気と闘いながら研究をし続けている。彼の頑張る姿を見て、心から尊敬している。そして力をもらったように体がやる気が湧いてきたように感じた。



私は今、目標を立てて、成功に向かって頑張っている。思い通りにならないかもしれないが、精一杯でやっている間に人生の方向を失った自分を取り戻せる気がした。

皆さんも成功に気をせずに、とりあえず興味を持っていることを集中して頑張ってみてください。それにしたら、もっとも広い世界の扉が開かれるかもしれないよ。

(経済学部・現代ビジネス学科 2008年度卒業生 孫 燕)

去年の末ごろ、私は顔面麻痺という病気にかかって、すごく大変でした。一番難しい時、家族からの支援もなく、一人で何でも背負うしかない私たちは、最初、心から辛かったです。その時、私に親切な手を差し伸べてくれたのは留学生センターの先生でした。大変だけど、力を入れてくれて最後まで、ずっと頑張ったんです。今は丈夫で、毎日楽しい生活を過ごしています。自分の目標を目指して精一杯頑張っています。今の世界経済危機において、私たちはもっと頑張らなければならないからです。

みなさん、人間として一番大切なのは、健康な体です。健康でなかったらいくら頑張っても無理なのです。「何かあったら、どうか支援センター来てください。」これは支援センターの樋口さんからよく言われる言葉です。何か困った時、支援センターを訪れたら必ず手伝ってもらえると思います。

四日市大学の優しい先生たちのおかげで、私たちは楽しい大学生活を送れます。自分の夢に向かって頑張りましょう。

(経営学科2年 鄭 英蘭)

京都への旅

環境情報学科4年 藍 海洋



京都、794年、平安京に都が移されて以来、明治元年の東京遷都までの間、都として日本の中心でした。その歴史は古く、さまざまな日本文化を育んできた事からも伺えます。と言うのは京都の歴史はそのまま日本の歴史と言えるでしょうか。私は中学の時に始めて先生から京都のことを聞きました。でもあまり印象的に気になっていませんでしたが、まだ日

本留学に来て京都はだんだん目立ちようにいて、いつか京都でも行こうかなと思いました。

去年の夏休みにやっと大学のおかげで京都と奈良へ行くようになりました。もちろん京都と奈良に行ったらどちらでも良かったですが、京都の景色、お寺散策などして京料理も堪能し、山々に囲まれた京都を満喫しました。京都で観光しようと思っても、こんな魅力的な古都でいろいろを考えました。京都は動乱や戦乱の激しい時代を経てきました。この地で、その当時をしのぶ貴重な遺産は至る所に残されています。そんなかつての華やかさが、随所に残り、今でもその当時を偲ぶ事ができます。ここで、古い時代から京都あるいは日本各地もお寺や神社をたくさん作ったのです。京都に行くならお寺に参拝して行かないと全然意味がないと言われていました。京都に住む人も京都観光に来られる方も悩み事や願い事があると思います。世界中どこに行っても誰でもこう言う心理が存在します。それらは神仏の力によって授かる利福ことです。自分にとっても家族にとっても会社に社会に国にとっての利福ですね。あなたの何々をしたい何々になりたいという思いの強さとそう思って神社やお寺に参ると言う行動、またその現実に向けての行動いや、参ると言うその行為自体が利益かもしれませんが、いずれにしても、その思いと行動が決め手になると思います。そういう気持ち持って京都に行こう、なんとなしに、足を運びたくなる。こころのより処なのでしょう。訪れた後は、なんとなく心が満たされた思いになります。

最近の京都の町並みも近代化が進んできました。町並み、経済、生活環境が変わり続けて便利になっている生活は嬉しいのですが、何か寂しさも同時に感じていました。便利になったということは、何かが犠牲になっており、例えば自然が少なくなったり、公園で遊ぶ子供が少なくなったり、近所付き合いが少なくなったりもしています。これも時代の流れ、格差社会という現実なののでしょうか？京都の良さを取り入れておられるのは、個人的に嬉しく思います。

やはり『京都』というのは世界にも通じるブランド名だと思いますし、京都人が住みやすくなるのは基本として、日本の各都道府県、世界の方々にも今まで以上にお越し頂けるような魅力のある町になってほしいと思っています。その為には古きよき時代の伝統や文化と、新しい近代的な要素を融合していくことが大事ではないかと感じています。

皆さんもチャンスがあれば、ぜひ行って見てください。